日加50周年記念論文コンテスト

内野さん、権田さんが入賞

日加協会が主催した日加国交五〇周年記念論文コンテストの入賞者は、東京都目黒区の内野栄子さん（聖心女子学院高等科三年）と愛知県岡崎市の権田梅芳さん（連尺小学校校長）の二人に決まった。応募作品は、八百二点。そのうち「私とカナダ」が六百二十七点、「これからの日加関係」が百七十五点だった。応募者は六才の子供から八十八才の老人まで、また地域的には日本全国はもちろん、バンクーバー、エドモントン、モントリオールまで、広範囲に及び、関心の深さを示した。カナダ観光、「赤毛のアン」、大阪万博や沖縄海洋博の見学、あるいは日系カナダ人との交流、カナダ在住などを通じて得た感想をまとめたのが多かった。「これからの日加関係」を扱った作品の大部分は、勉強のあとが見られたものの、資料不足のせいか具体的な提言が少なく、内容的には今ひとつ物足りない、というのが大方の選者の評であった。ただ、いずれの作品にもカナダに対する熱意がうかがわれて、関係者は入選作を決めるのに苦労したという。入選者は下記のとおり。（敬称略）

●入賞（賞金　二十万円、副賞　東京―モントリオール間往復航空券）
内野栄子（東京都目黒区）
「私のカナダ像」
権田梅芳（愛知県岡崎市）
「一教師のカナダ体験――小学生の相互訪問を通して」

●佳作（賞金　五万円、副賞　カメラ一台）
真壁知子（オンタリオ州トロント）
西原容子（大阪府吹田市）
佐藤　修（千葉県我孫子市）
山田　徹（ケベック州モントリオール）
坂本信雄（千葉県松戸市）

●選外佳作（ラジオカセット一台）
多田正俊（大阪府堺市）
片岡法子（栃木県宇都宮市）
橘　明美（埼玉県草加市）
塩入　隆（長野県長野市）
新保　満（オンタリオ州ウォータールー）

〈入賞〉

私のカナダ像

内野（うちの）栄子（えいこ）

生まれてこの方、私は日本から足を踏み出したことがない。だから十七才の私は、まだ見ぬ外国に、あれこれ思いを巡らすのが大好きである。中でも、美しい森と湖の国カナダへは、かなり強い憧れを抱いてきた。子供の頃に目を輝かせて聞いた、動物と仲の良いインディアンの少年「ロッキーちゃん」が住んでいたロッキー山脈、赤毛のアンの故郷――これで充分であった。今、私は、カナディアン・ロッキーの山と樹と千変万化の湖の織りなす数々の風景のポスターの前に立ち、ため息をつきながら、日本の二十七倍の広さを感じている。

妖精がくれた贈り物の国カナダ。ついこの最近まで、それは単なる憧れ以上の何物でもなかった。美しく広大な自然が、カナダの二要素であるにせよ、そこに住む人々、文化、それをまとめるカナダという国そのものに対して、ほとんど興味を持っていなかった。

そんな私にとって、カナダが急に身近な国として感じられだしたのは、兄の留学という契機を通じてである。兄がどういう経過でカナダを選んだのか、よく知らないが、ともかく今年の春旅立って行った。そして折にふれて兄が寄こす手紙から、カナダの人々の生活、考え方といったものを感じ取れるという、幸運な機会に恵まれた。さらに私は、この夏休みに三週間ほど、ある英語会話の合宿に参加し、そこで数名のカナダ人と知り合い、カナダ人の生活様式と共に国民性にふれることができたこともあって、私のカナダ観は急速に育ってきたのである。

よく「日本人が外国を知っているのに比べ、外国人は日本のことをほとんど知らない」という話を耳にする。しかしそれにもまして、我々が知っていると思っていることと実際との隔たりが大きい、というのも、また言われるところである。そしてカナダという国に対し、私が持つ